

## 令和3年のアワビ漁況

### 1. 令和3年の漁模様

本県のアワビ漁は6月に解禁となり、主に素潜りで行われます。今年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴うアワビ需要への影響が続くなかで、7月下旬から断続的に海が荒れたこともあり、延べ出漁日数は昨年よりもやや減少しました（前年比87%）（図1）。

また、今漁期の漁獲量は昨年からはほぼ横ばいの14.7トン（前年比99%）、平成24年以降では3番目に多い漁獲となりました。1日あたりの漁獲量（kg/日）は平成28年以降上昇が続いており、震災後の自主的な獲り控えや種苗放流の再開によって、アワビ資源が回復してきたと考えられます（図2）。

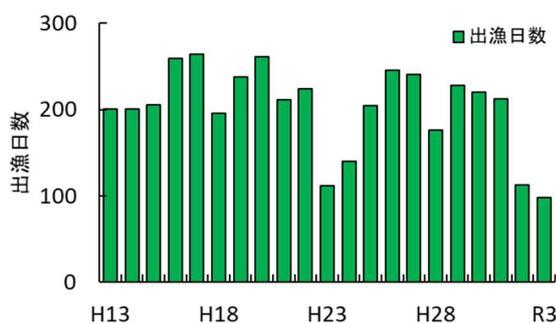


図1. 茨城県におけるアワビ漁の出漁日数.

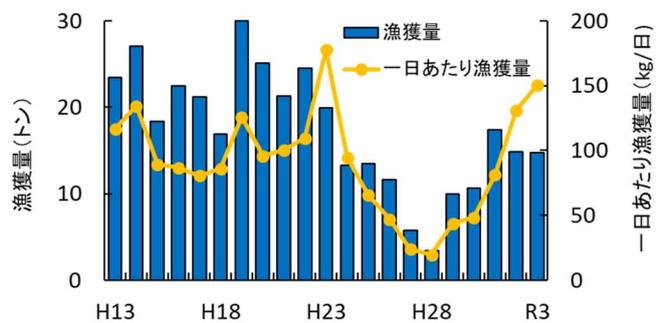


図2. 茨城県におけるアワビ漁獲量と1日あたりの漁獲量の推移.

### 2. アワビ資源の由来

本県のアワビ資源は天然と人工種苗（放流貝）が由来となっており、人工種苗は毎年25～30万個が放流されています。人工種苗のアワビは殻の頂点付近（若い頃の殻）が緑色で、天然貝と見分けることができます（図3）。

水産試験場では、漁獲されたアワビに人工種苗がどの程度含まれているかを毎年調査しています。昨年、人工種苗の割合は24.2%に減少しましたが、今年は39.5%と前年の約1.6倍に回復しました（図4）。なお、H27～30年にみられた低い割合（21.4～30.7%）はH23～26年に震災の影響で放流数が減少したためと考えられます（人工種苗が漁獲され始めるのは放流から約3年後以降のため）。

アワビ資源の維持・増大を図るために今後も自主的な漁獲管理や種苗放流の実施等、適切に資源を管理していくことが大切です。

（定着性資源部 古川 洋之介）

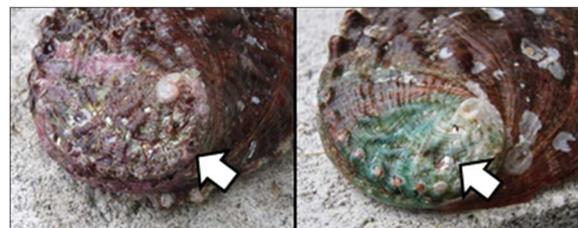


図3. 天然と人工種苗の見分け方. 人工種苗は矢印で示す殻の頂点付近が緑色になっている.

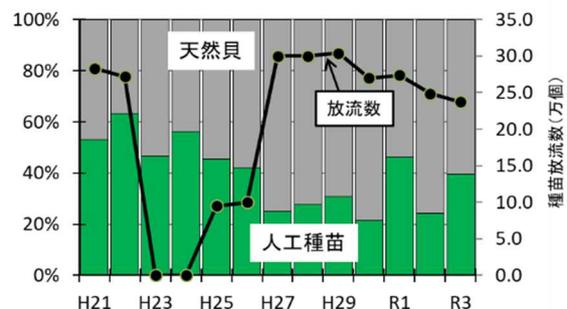


図4. 漁獲物に占める人工種苗の割合と種苗放流数の推移. 放流種苗の漁獲は放流から約3年後以降となる.